

社会的養護の新展開 16

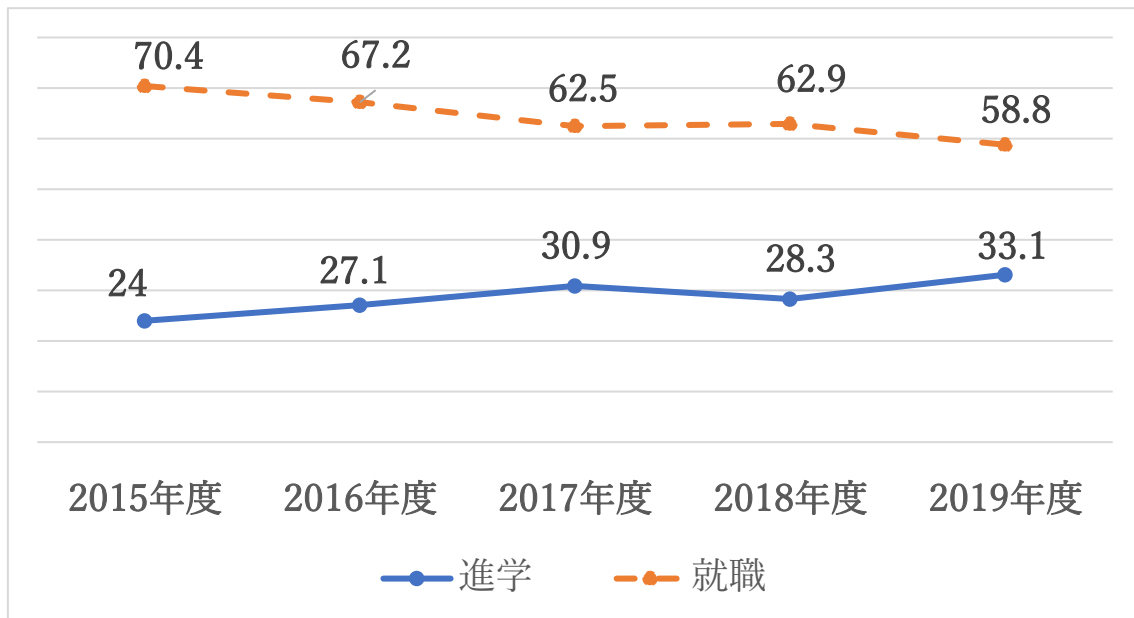
—親と離れて暮らす子どもたちの養育とその後 4—

浦田 雅夫
大阪成蹊大学

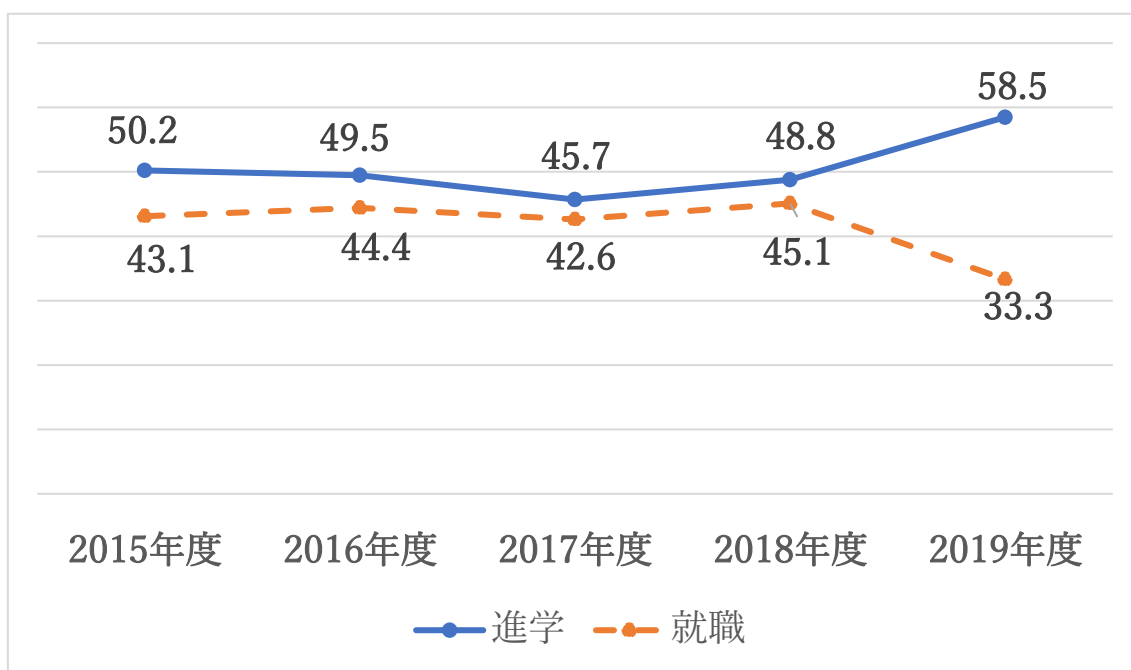
進路をめぐって、「本当に大学に行きたいの?」「借金を背負って生きていくってことをわかっているの?」「どうやって生活するの?」云々さんざん施設の職員から言われたという方は少なくない。失敗したら自己責任。「あなたのためだから」

ブローハン聡さんは自身の体験を綴った『虐待の子だった僕』(2021)のなかで施設では進路選択のなかで「ドリームキラー」な大人が多く、すごく残念であるという。「その子が『やりたい』ということにどれだけ寄りそって考えるか。子どもの選ぶ権利を尊重できる大人が増えるといいと思います。」と記す。

長年、児童養護施設から大学等へ進学する者はひろく一般の高校生と比較すると極端に少なく、ほとんどが高卒で就職をする状況であった。しかし、近年、大学等(専修学校含)へ進学する者が増加している。里親委託の場合は、さらに進学率は高くなり、就職する者よりも進学する者のほうが多くなっている。



児童養護施設における高卒後の進路割合 (%) の変化
(厚生労働省の資料をもとに筆者作成)



里親委託児の高卒後の進路割合 (%) の変化
 (厚生労働省の資料をもとに筆者作成)

2018年からは、本格的に日本学生支援機構の給付型奨学金制度がスタートし、さらに2020年度からは学費と生活費をトータルでサポートする「高等教育の修学支援新制度」がスタートした。また大学によっては、経済的に困窮する学生に対する経済的支援を行うところも増えてきた。これによりいままでも以上に社会的養護を終えた若者は大学等に進学する者が増えるだろう。しかし、金銭的ニーズだけではなく、複合的な課題を抱える若者に経済的支援だけでは不十分である。

「私の大学は学費の免除があることから施設の人が多いです。ですが、金銭面の管理ができずに辞めたり色々な事情をかかえ辞めた人が多くいました。私は施設の【支援コーディネーター】の方のおかげで金銭面はなんとかかなり、孤独は施設の先生が気にかけてくれたりとサポートしてくださりました。それでも、大学は施設の出身者を入れて入学者を増やしたいだけだと疑心暗鬼になりました。辞めたいと何度も思いました。でも辞めたら借金だけになると思い辛い気持ちのままでした。幸いにもある素敵な大学の先生に出会ったことでその気持ちも薄まりましたが、私の心はその時の思い残りが残ったままです。」

(令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「児童養護施設等への入所措置や里親委託等が解除された者の実態把握に関する全国調査」三菱UFJリサーチ&コンサルティング 2021年 自由記述より)

この方が指摘されるように、金銭管理は大きなテーマである。また、出身施設や大学等の進学先、アフターケア事業所等とのつながりとサポートが必要である。

「土俵際」、「崖っぷち」で戦い続けるのは辛すぎる。足を滑らせたなら、奈落の底である。自己責任なのだろうか。

【ご案内】

対人援助学会第13回大会では、2022年1月30日（日）ブローハン聡さんをお迎えし、「ステイホームとケアリーバー〜ケアリーバーがコロナ禍の社会を生きるということ〜」というテーマでお話をさせていただきます。詳しくは以下のHPをご覧ください。

<https://www.humanservices.jp/meeting/meeting-program>

Book

傷を負った子どもは、どのように過去を糧にし、どんな社会を思い描いて進むのか。30年分とは思えない嵐のような人生の記録。

定 価：1650 円

発売日：2021年10月6日

発 行：さくら舎



amazon.co.jp



楽天ブックス



セブンネットショッピング